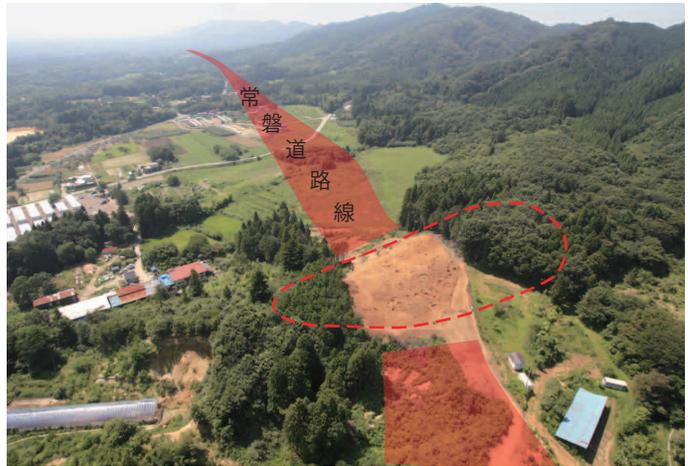


# 山元町 にししいまはら 西石山原遺跡

平成 22・23 年度発掘調査 現地説明会資料  
平成 23 年 8 月 27 日 (土) 10:30～

## [ 調査要項 ]

遺跡名	西石山原遺跡
所在地	亘理郡山元町高瀬字西石山原
調査原因	常磐自動車道建設
調査主体	宮城県教育委員会
調査担当	宮城県教育庁文化財保護課
調査協力	東日本高速道路株式会社東北支社 山元町教育委員会
調査期間	平成 22 年 7 月 29 日～12 月 9 日 平成 23 年 6 月 13 日～9 月 (予定)
調査面積	約 3,500 m <sup>2</sup>

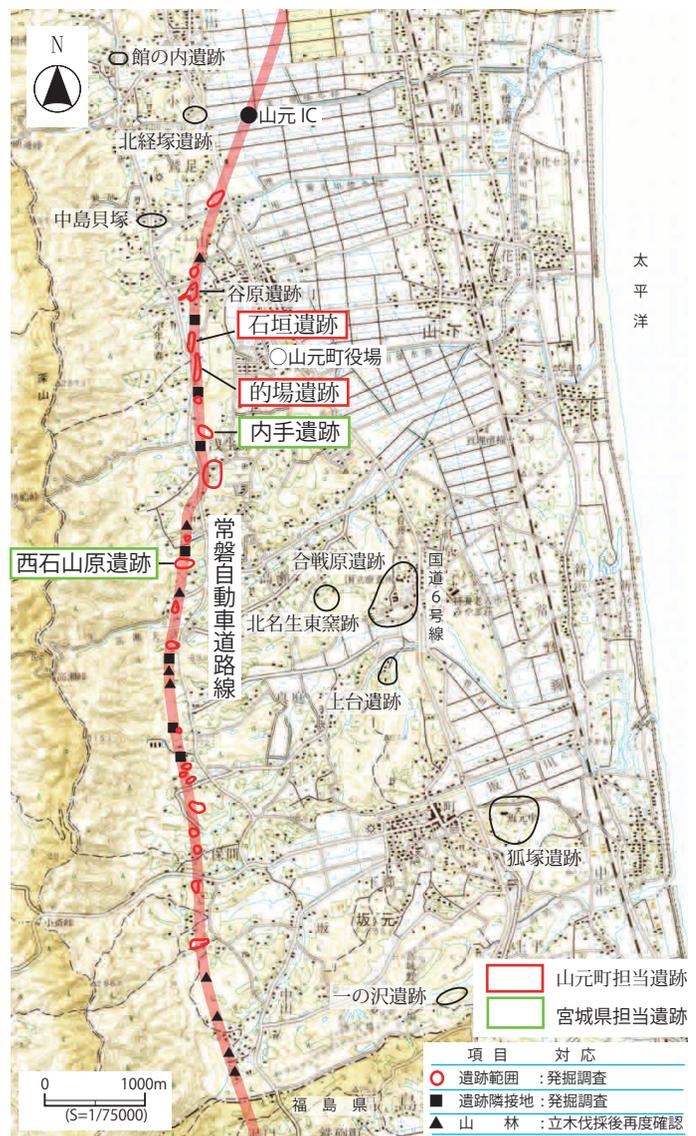


写真① 上空から見た西石山原遺跡 (北東方向から)

## 1. はじめに

山元町では常磐自動車道の山元 I C 以南の建設工事が進められています。道路建設予定地には、縄文時代から江戸時代まで各時代の遺跡が、現在までに 35 遺跡確認されています (第 1 図)。これらの遺跡の発掘調査を、宮城県教育委員会と山元町教育委員会が分担して、平成 22 年度から実施しています。

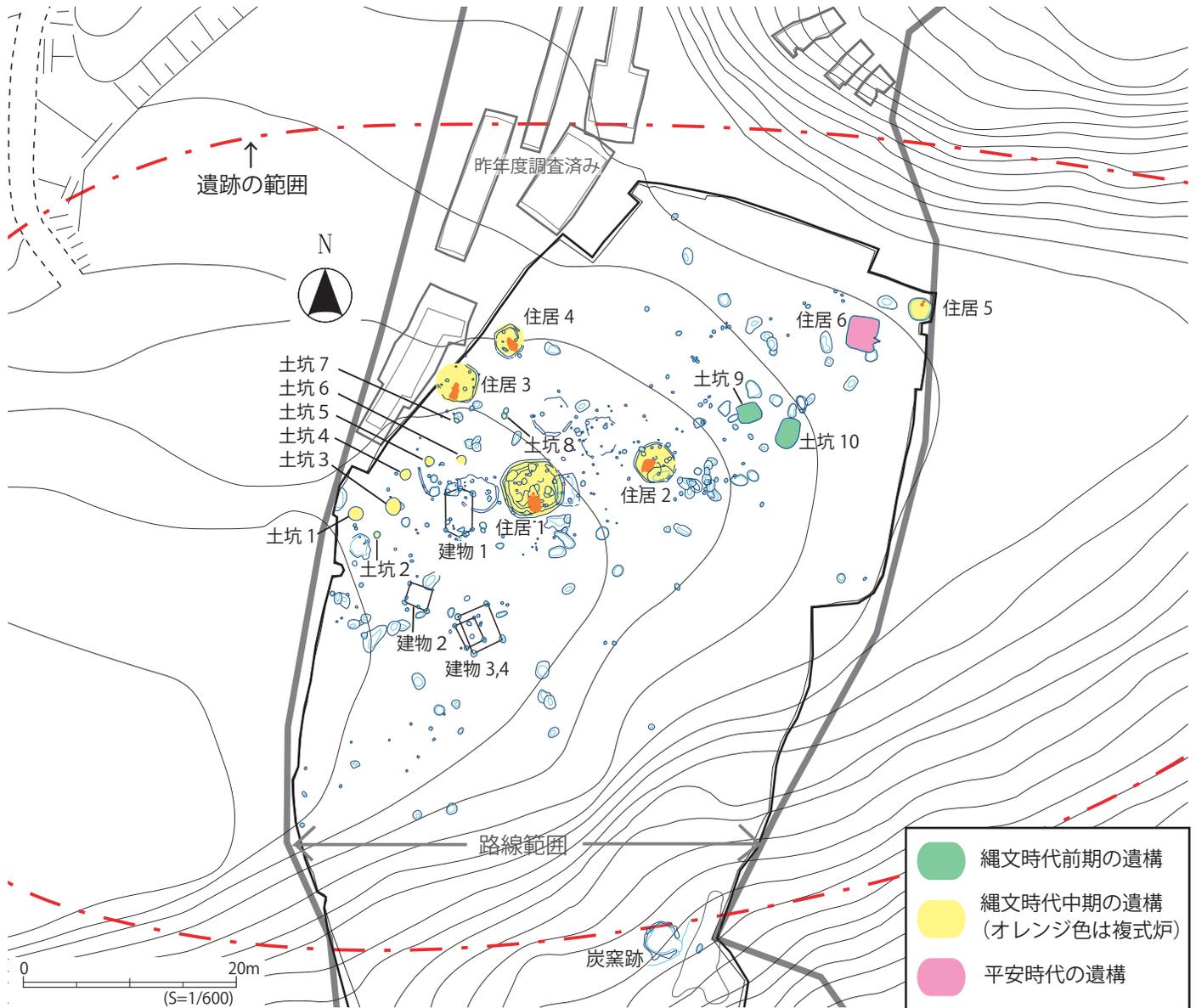
西石山原遺跡は標高約 90m の丘陵上にあり、東西約 100m・南北約 50m の遺跡範囲のうち、道路が建設される部分 (約 3,500 m<sup>2</sup>) を平成 22・23 年にかけて発掘調査しました。その結果、縄文時代の<sup>たてあなじゆうきよ</sup> 竪穴住居跡・<sup>ほったてばしらたもの</sup> 掘立柱建物跡・<sup>どこう</sup> 土坑 (穴) や、平安時代の竪穴住居跡などが多数発見され、土器・石器などの遺物が多く出土しました。



第 1 図 常磐道の路線と調査遺跡、および周辺の主な遺跡

## 2. 調査成果

丘陵頂部の平坦面から、縄文時代の竪穴住居跡 5 軒、掘立柱建物跡 4 棟、土坑 40 基以上、平安時代の竪穴住居跡 1 軒などが見つかりました（第 2 図）。また、丘陵の南斜面からは時期不明の炭窯跡すみがまが見つかりました。

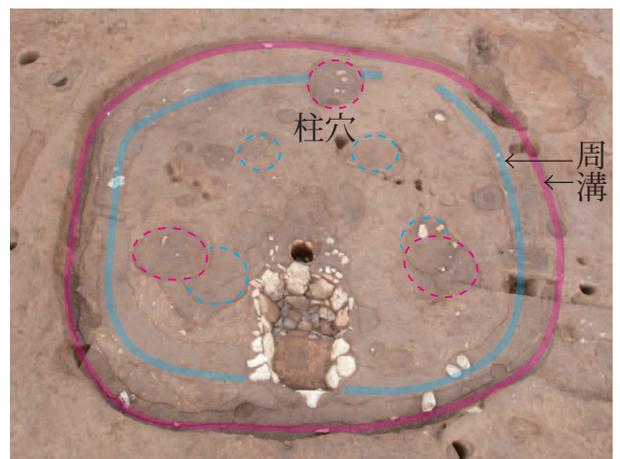


第 2 図 調査区と発見された遺構

### A. 縄文時代

#### ①竪穴住居跡

縄文時代中期の終わり頃（約 4,500 年前）の竪穴住居跡が 5 軒見つっています。このうち住居 1 は、地面を円形に 30cm 以上掘り下げ、床を平らしゅうこうに作っています。壁に沿って木材を並べた溝（周溝）が 2 列あることから、住居を作り替えて拡張したと考えられます。古い住居は直径約 5.5m で柱が 4 本、新しい住居は直径約 6.3m で柱が 3 本あったと推定されます。また、住居の中央には長さ約 2.0m、幅約 1.1m の「複式炉」ふくしきろが作られています。



写真② 竪穴住居跡 1（南から）  
青が古い住居、赤が新しい住居

「複式炉」とは・・・

床に掘りくぼめた穴の周りを石で囲んだ部分と、その奥の土器を埋めた部分が組み合わされているため、「複式」と呼ばれます。石で囲んだ部分で火を焚き、土器に火種を入れていたと推定されています。縄文時代中期の終わり頃の東北地方南部に特徴的に見られますが、山元町内で発見されたのは初めてです。今回見つかった竪穴住居跡は、直径 2.4 ～ 6.3m と大きさは様々ですが、いずれも中央に複式炉が作られています。

## ②掘立柱建物跡

柱の穴が多数見つかり、組み合わせが分かるものは少ないですが、四角形（建物 2 ～ 4）や六角形（建物 1）に柱を並べた建物跡があったと考えられます。

## ③土坑（穴）

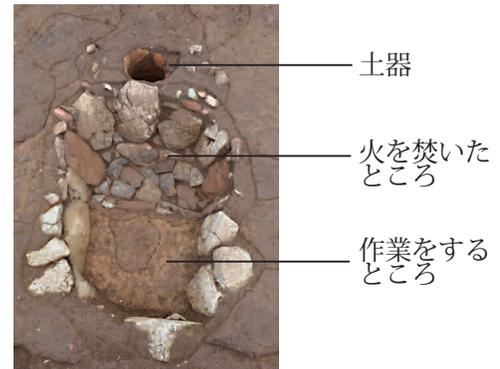
40 基以上見つかり、多くは性格不明の穴ですが、食糧貯蔵用の穴と考えられるものが 8 基あります（土坑 1 ～ 8）。直径 1.0 ～ 1.6m、深さ 0.4 ～ 1.4m あります。穴の入り口よりも、底のほうが広く、袋状にふくらむ形が特徴的です。これらは竪穴住居跡と同時期のものと考えられ、中には土器や石器が多く捨てられていました。

## ④縄文時代の遺物

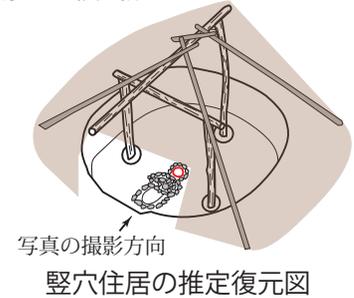
縄文時代の土器や石器が多く出土しています。写真⑤の土器は縄文時代中期の終わり頃のもので、このような土器が竪穴住居跡や土坑から多く出土しています。

写真⑥の 2 ～ 6 は縄文時代前期（約 6,000 年前）の土器で、土坑 9・10 ではこれらの土器がまとまって出土しています。同じ時代の集落は北経塚遺跡（小平）でも見つかり、この他に、縄文時代早期の中頃（約 9,000 年前）と推定される土器（写真⑥-1）が出土しています。

縄文時代の石器には、石鏃（写真⑥-7～9）・石匙（10・11）・石錐（12）・石製装飾品（13）・石斧などがあります。



写真③ 住居跡 1 の複式炉



竪穴住居の推定復元図



写真④ 土坑 1 ※調査のために穴を半分だけ掘り下げた状態です。



写真⑤ 縄文時代中期の土器（土坑 4 出土）



写真⑥ 縄文時代早期～前期の土器 および縄文時代の石器

## B、平安時代

9世紀後半頃の竪穴住居跡が1軒見つかりました。一辺約3mの四角形で、東側の壁に炊事用のカマド、その右側に貯蔵用の穴がありました。カマドは、両脇に石を立て、それを粘土で覆う形で作られていました。

カマドの周りからは、当時の焼き物が多く出土しました。食器として使われた土師器や須恵器のほかに、塩作りに使ったとみられる薄い土器(製塩土器、写真⑧-4～6)も見られます。同時代の住居跡は、町内では館の内遺跡(小平)・狐塚遺跡(坂元)などで見つかっています。



写真⑦ 竪穴住居跡6 (西から)



写真⑧ 竪穴住居跡6から出土した土器

## C、その他

丘陵の南斜面で窯跡が1基見つかっています。直径約3.5m、深さ0.6～1.2mの半地下式の窯跡で、南東側に焚き口が、奥壁にはトンネル状の煙道(えんどう)が設けられています。また、窯跡の南東側斜面には多量の炭が広がっています。遺物が出土していないため時代は不明ですが、炭を作った窯跡と考えられます。



写真⑨ 炭窯跡 (南東から)

## 3. おわりに

西石山原遺跡の調査では、これまであまり知られていなかった宮城県沿岸南部の縄文時代集落が見つかるなど、貴重な成果がありました。今後も常磐自動車道建設にともない、多くの遺跡を発掘調査する予定で、成果がまとまり次第公表していきます。9月から予定されている内手遺跡(浅生原)の調査では、奈良時代の窯跡または製鉄炉跡(せいてつろ)の発見が期待されています。新たな山元町の歴史が明らかになる可能性がありますので、是非注目してください。

### 【関連年表】

時代	年代	できごと	町内の主な遺跡	
旧石器時代			一ノ沢遺跡 (中山)	
縄文時代	草創期	約16,000年前	土器・弓矢の使用が始まる	
	早期	約12,000年前		
	前期	約7,000年前	縄文海進	北経塚遺跡 (小平)
	中期	約5,500年前	三内丸山遺跡の最盛期	西石山原遺跡
	後期	約4,500年前		谷原遺跡 (山寺)
弥生時代	約3,300年前	東日本に亀ヶ岡文化が栄える	中島貝塚 (鷺足)	
弥生時代	約2,500年前	水田稲作の始まり	上台遺跡 (真庭)	
古墳時代	西暦300年頃～	古墳が盛んに作られる	合戦原遺跡 (合戦原) 狐塚遺跡 (坂元)	
飛鳥時代	645年	大化の改新	井戸沢横穴墓群 (下郷)	
奈良時代	710年	平城京に都が遷される	北名生東窯跡 (合戦原)	
	724年	多賀城が作られる	谷原遺跡 (山寺)	
平安時代	794年	平安京に都が遷される	館の内遺跡 (大平)	
	869年	陸奥国大地震	西石山原遺跡	
鎌倉時代	1192年	源頼朝征夷大將軍となる		